

# 総合研究発表会



2020年1月25日(土)、上田市セントミュージアムにて総合研究発表会を行いました。分野での学習活動を積み重ね、一人一テーマによる一年間の研究活動の集大成の発表会です。

一般の方からの評価が高かった研究としては、食べる力やおいしい介護食の工夫を研究した、福祉分野の「自分の口で食べる幸せ」・信州の伝統材料を取り

入れたり、新しいアニメ・ゲーム文化を取り入れたりして表現した被服分野のファッションショー・地域の環境整備に取り組んだ工業分野の発表がありました。自分の研究と地域や社会で求められているものが融合し、研究が世代間をつなげていく可能性があることを示してくれましたように思います。

一方中高生から高評価を得たのは、人はどのような意識で物を買うのかという「商品ブランドと購買活動について」研究した商業分野の発表・世界と日本の子どもの貧困問題について、活動家へのインタビューや子ども食堂への取材をもとに研究した地歴公民分野の「絶対的貧困下と相対的貧困下で暮らす子どもたち」など、現在、自分たちが直面する問題や、今後の未来について語る発表に関心が集まりました。

一般の方とは視点が違い、自分を取りまく生活や世界から疑問点を見つけ、自分たちの未来につながる形で発表できているか、というところに注目しているようです。これらの発表によって、丸修生たちのいろいろな未来の可能性が見ることができました。

今年度の総合研究発表会では、ホワイエでのパネル展示発表の充実を考え、準備を進めてきました。ステージ発表には選ばれなかったものの、興味深い研究を行なった3年生の生徒達。研究を行なった全員の生徒に光が当たるような発表にしていこう、と始めた準備でした。



模造紙、ポスターに研究内容をまとめたもの・立体模型や椅子などの立体作品・パソコンでの動画作品・花や服などの制作物。パネルには、写真や掲示物の他、机の上には様々な作品も並びました。

下級生達は、真剣に楽しそうに掲示物を見学し、3年生は、研究の説明をしたり、質問に答えたりする姿が見られました。3年生は「こんなにたくさんの人に見てもらえると思っていなくて、緊張したけれどうれしかった。」1・2年生は「自分も先輩達のようなおもしろい研究を考えて、がんばっていきたい。」など感想の中で語っていました。